

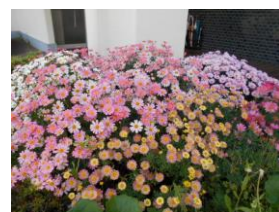
よさを生かして

副校長 帯川 理加

正門そばのつつじが満開となっています。咲き誇る花々を見ると、新年度を迎えてから慌ただしく過ごしていた気持ちが、ほっと和む感じがします。子どもたちも新しいクラスでの緊張がほぐれ、元気に活動している姿が多く見られるようになりました。



先日、1年生の担任が、「1週間のなかでも、できるようになることがどんどん増えていくんです。」と子どもの成長ぶりに驚きながら、うれしそうに話していました。子どもたちの姿は、花々以上に私たちに喜びと感動を与えてくれることを改めて感じます。



さて、今年度も新型コロナウイルス感染症終息の目途は見えず、対策を講じながらの学校活動を続けることとなっています。何が子どもたちにとって大切なのかを見極め、「できることをできるときに」と考えています。そんななか、昨年度は、学校でもICTの活用が大きく前進しました。一人一台端末が配られ、授業で使うことが日常となりました。学級閉鎖となった折には、家庭にいても学びが継続するようロイロノート・スクールを活用して課題のやりとりを行うことができ、会えなくても子どもたちとつながる利便性を実感しました。今では、教職員の会議や研修もオンラインで行うことが多くなり、大勢が集合することは少なくなりました。

では、子どもたちが教室に集うことのよさは何なのでしょう。私は、その場のやりとりだからこそ即座に反応でき、気付けることがあると思っています。また、日頃のかかわりがあることで、その性格や人柄を加味して、オンライン上でも相手の反応を想像したやりとりができるのではないかと思います。さらに教室では、子どもたちの表情やしぐさ、ちょっとした変化に気を配ることもできます。今後は、ICTを活用しつつ、顔を合わせることのよさも生かし、指導を工夫していくことが必要だと感じています。

今年度も、子どもたちにとって充実した日々となるよう職員とともに尽力していきます。保護者・地域の皆様にも多くの場面で、ご協力をいただくこととなりますが、どうぞよろしくお願ひします。